



表紙の写真

えんざん桃源郷  
ひな飾りと桃の花まつり  
( 甘草屋敷ひな祭り )

甲州市塩山の『甘草屋敷』では、えんざん桃源郷「ひな飾りと桃の花まつり」が2月中旬～4月中旬まで開催される。桜や桃の花が一面に咲きほこる中、屋敷内には江戸時代から昭和に亘るまでの多数の雛飾りが展示される。

表紙の写真は「ひなの吊るし飾り」といわれるもの。雛飾りの一つで、その歴史は古く、江戸時代から続いているといわれる。飾りには、塩山オリジナルの「遣子児(子宝・安産の神様)」という、熊野神社の奇祭「やっこらこら」に伝わる人形や、「葡萄」「桃」「信玄さん」といった甲州らしいものまである。これらは一つひとつ丁寧に手作りされていて郷愁かられる。

「MUH」vol.36 2007.4.1

企画 / 早野グループ「MUH」編集室

深沢進・矢田道生・赤尾肇・青柳友昌・樋口明美・萩原美恵

編集 / 株式会社ニュースメディア甲府

三神弘・三井君男 / 高山ひとみ / 千野和美 / 萩野由香 / 宮塚利雄・杉村聡 /

浅川毅・標克明・永田宏

印刷 / 株式会社サンニチ印刷

誌名の「MUH」は、早野組の社訓である「和」を託したMate( 仲間 )Union( 結束 )Harmony( 調和 )の頭文字からとりました。幻のムー大陸のロマンを目指します。

フォーラム 2

テーマ 迷 信 江宮隆之・古屋久昭・岩崎正吾・佐藤眞佐美

対 談

山梨21 藤巻 愛子 さん 山梨むかしがたりの会主宰 4  
日本民話の会会員

ふるさとの「宝もの」探し  
甲州弁の語り手  
昔話を語って30年

ホスト 早野 潔

トピックス

地球温暖化は人間社会に対する危機の警告 宮塚利雄 10

ウォッチング

学校法人 優和学院 優和福祉専門学校 11

サークル訪問

長唄を楽しむ会 13

セミナー

米を炊く～ 深谷百合苗 14

山梨の祭り

甘草屋敷ひな祭り(えんざん桃源郷) 15

インフォメーション

早野組・ネットヨタ甲斐・ヨタホーム山梨・甲府通運・ロード・やさしい手甲府 16

歴 史

武田左馬助信繁 上野晴朗 18

ミュージアム

ボクのやまなしフィールドミュージアム03 山本育夫 20

BOOK

甲州道中甲府柳町宿 福岡哲司 22

お茶の間の民俗学 やまなし・ふるさとの歌と芸能をたずねて

幡野八幡神社お開帳の祭り(二) 水木 亮 23

名峰からの富士山

百蔵山 上野 巖 24

甲府通運前史を訪ねる(29) 林陽一郎 25

ユーザー訪問

山梨県保険医協会 26

お家拝見

大沢 裕司さん 27

とこのひと・FACE

ネットヨタ甲斐株式会社 本社甲府店 益田 陽介さん 28

やさしい手甲府

介護保険情報 介護予防 29

おしゃれ

カラオケルーム ベルシャ館石和店 リラクゼーションスペース 隠れ家 たべる きじ亭 30

コラム

某月某日 杉村 聡 31

ロードのページ

甲斐の細道「山本勤助も信仰した摩利支天 青梅街道」若林賢明 32

# 迷信

## 本所の七不思議

江宮隆之

「ハクション!」「クシヨシ」。クシャミの回数にも良い噂と悪い噂があるそうで、3回クシャミをしたら風邪引きに決定だとか。

下あごの乳歯が抜けたら、屋根に向かって投げれば、強く丈夫な永久歯が出てくる。

黒猫に前を横切られたら、不吉な事が起きる前兆。日本人は、こうした迷信に囲まれて暮らしてきた。どんなに科学が進んでも、理論的に様々な不可思議な出来事が説明されても、それでも日本人のDNAに刷り込まれた迷信は、生きている。

トイレの花子さんも、口裂け女もその延長線上にあって、今後もいろんな迷信が新たに生まれてくることは請け合いだ。

ところで、江戸時代も同様。夜はとにかく暗い。街灯などはない時代である。そこで、いろんな不思議が囁かれる。代表的なのが、「本所の七不思議」。

釣りの帰りに葦の中から聞こえる「置いてけ、置いてけ」の声。「置いてけ堀」である。「馬鹿囃子」は、夜になると聞こえてくるおはやしに着いていくと、とんでもない所に連れて行かれてしまう。前方に見える

提灯が、追っても追っても追いつかない「送り提灯」。

あとは、松浦屋敷の椎の木は落葉しない。津軽藩邸では火の見櫓に太鼓がある。この地域の葦は片方にしか葉が着かない。最後が「消えずの行灯」。消えたことがない蕎麦屋の行灯をいう。

しかし、江戸の七不思議はこればかりではない。八丁堀にも、番町にも、豊巖島にも、麻布にも、さらには江戸城にも七不思議があったという。

それにしても七福神といい、七不思議といい、江戸人はどうしてこんなに七つという数字にこだわったのか。どうやらそれも迷信につながるようだ。

だが江戸人たちは、こうした闇夜の七不思議をみんな力で力を合わせて克服することも忘れなかった。隣近所や親戚、家族の力である。

ところがどうだろう。昨今は、親が子を殺し、子が親を殺す。近所も物騒で外出には必ず施錠が必要。「本当に怖いのは身内だよ」。そんな声さえ聞こえる。迷信の中で身内ばかりか、他人をも思い遣って生きていた時代は健全であった、ということだろうか。

## 迷信ならぬ迷言

古屋久昭

迷信というものには全く疎い。疎いから迷信もあまり知らないで今日まで来た。そのくらいだから信じた迷信もない。エピソードも思い出せない。

だからといって、すべて理性や科学的根拠に即して生きてきた、などというつもりもなく、いえるわけもない。

世の中には、ひたすら迷信にすがって、それで結構シアワセに暮らしていたり、こころの平安を保っておられる人たちもいると聞く。よくいうのではないが、信ずる人は幸せであると。

迷信をひたすら信じている人種に科学や他人の道理がちょっかいを出したところで始まらない。

が、迷信が大手をふってテレビに出たり、集団をつくったり、商売をしたり、権威を持ちすぎてもこまるのである。迷信で詐欺行為などされたらこれはもう犯罪である。まして国家に迷信を利用されたらたまらない。

迷信は、素朴でなくてはならないのだ。もともと遠い昔、自然と向き合う暮らしの中で、人々の思いから、楽しみや戒めや願いのために生まれてきたのである。

つまり古代人の生活の知恵として必要としたものなのだ、と、訳知り顔でいうのもはずかしいが。

科学技術の発展や情報化の社会にあって、なおも迷信を信じる人を、わたしは現代の古代人だと思う。本来、素朴、朴訥をたくさん持ちあわせている愛すべき古代人なのである。

飛ばした下駄が、表を向けば晴れ、裏を向けば雨。昔の子どもが本気に信じていたとは思わないが、こんなたわいない遊びをしては日が暮れた子どものころが思いだされる。

おまじないのような迷信は歓迎だが、猫が化けるとか、人が死ぬなどといった祟りのような陰湿な迷信はご免だ。

さて、二酸化炭素が増えれば地球はアツアツ。迷信のように信じていたこれまでの石油文明や右肩上がりの大量生産大量消費型暴走経済の価値観に、今、転換が迫られる。

21世紀中ごろには、地球温暖化の問題はひょっとして戦争よりも大きなテーマになるやもしれぬ。これ、わたしの迷信ならぬ迷言である。

## 最近、考える「迷信」ということ

岩崎正吾

いきなり恐縮だが、2,3年前、わたしは猛然と腹を立てた。これが一国を代表する首相のやることなのか。このことは、単なる「迷信」ではないか。そのためアジアの国々の怒りを買うことは、日本国民にとって得なことなのか…。

いうまでもなく、小泉純一郎首相(当時)の靖国神社参拝問題である。

参拝の理由を、小泉さんはこう言った。国のために命を投げ出した人に、追悼のまことを捧げることは日本国民として当然のことではないか…。

うん、とわたしは手を打ちたい。まったくそのとおりだ、同感である。

戦争中に生まれたわたしたちは、戦後の混乱期の記憶はあっても戦争そのものの記憶はない。甲府空襲の夜、母に背負われて逃げながら、わたしは焼けてゆく町を見てキャアキャア大喜びをしたそうだがそれもまったく記憶がない。

戦争の記憶はまったくないのに、わたしたちの世代はほぼ全員といっていいほど戦争を刻印されている。名前の中に、戦争の最中にふさわしい文字が使

われているからだ。「東亜」君も「勝利」君も「忠孝」君もいた。かくいうわたしも、本名は「征」という字が使われるが、それは戦場に行くという意味である。

戦争を記念された世代の一人だからだろうか、わたしは自分の存在の中に戦争が分かちがたくあることをずっと意識してきた。その小さい証だが、わたしの地域出版社では「県民の戦争体験」をたくさん刊行している。戦争のことを忘れてはならないと思うからだ。

しかし…と、わたしは声を大にして言いたい。国のために戦って死んだ人々に「追悼のまこと」を捧げることが、靖国神社に参拝することだとはわたしはまったく思わない。そもそも戦死者の霊魂が靖国神社に集まっているなんて、子どもでもわかる迷信ではないか。戦争中、靖国神社がさかんに宣伝されたのは、戦争を美化するために他ならない。戦後60年を越えた今、紋付八カマで迷信を演ずる首相と、それを非難しようともしないマスコミの姿は、世界中に「不思議な国ニッポン」を印象づけたのではあるまいか。

## 豆占いについて

佐藤眞佐美

知床で昔、節分の日に豆占いをやった。十能の上<sup>じゅうのう</sup>に大豆を12個並べ、ストーブに乗せる。その焦げ具合を見て、当該月の天候や作況を占うのである。祖父も父も山形県出身だから、その地方の風習だったのだろう。インターネットで調べると、愛媛県にも同じ風習があったようだが、総じて関東以北に多い。占いというと亀の甲らや鹿の骨をあぶって、そのひび割れ具合で判断を下すのが古くから知られている。甲骨文字がそこから生まれた、と中学生のころだったかに習った記憶がある。

占いにはいろんな種類がある。粥占いに興味を覚え調べてみた。地域によりやり方に違いがあるが、関西から九州にかけて多い。福岡県では粥に生えたカビの色や生え方を見て、その年の農作物の出来具合を判断するという。大阪近辺や和歌山あたりでは、小豆粥の中に10~20センチほどの篠竹の束を入れ、筒につまった小豆や米粒を数えてその年の作況を占う。粥の中に棒を入れ、子に恵まれない婦人の腰をその棒で打つと男児が生まれるという。柿の木などに傷をつけ「成るか成らぬか」と責めながら棒で粥を

塗る、「成木責め」という行事もあった。「サル・カニ合戦」でカニが鉄を振り上げ「成らねばちゃんぎるぞ」と威す風景はおなじみだ。かつて山梨県でも箸で粥を塗り、同じ行事が行われていたという。(土橋里木著『甲州昔話集』岩崎美術社)

前述のごとく粥占いは南に多く、関東以北では豆占いが多い。粥占いはもしかしたら早い時期から米が栽培された地域で、弥生時代以降に行われた行事ではなかろうか。豆占いは稲の伝播の遅かった地域で行われていたのでは、と推測する。豆は縄文時代からの栽培作物で、マメで達者でなどと俚言にも残り、正月料理には欠かせない縁起ものだ。

ところで、本文が今回のテーマに該当するかどうか、自信がない。『広辞苑』に「迷信」 道理にあわない言い伝えなどを信ずること。現代人の理性的判断から見ると不合理と考えられること。「俗信」 民衆の間で行われる宗教的な慣行・風習。呪術・占い・まじない・幽霊・妖怪の観念。これらのうち社会に害を及ぼすものを迷信という、とある。

江宮隆之  
えみや・たかゆき  
1948年増穂町生まれ  
作家。第13回歴史文学賞、第8回中村屋湖文学賞受賞。代表作に『白猫の人』など。最新刊は『真田幸隆と学研M文庫』2人の助勤。『母ちゃん』

古屋久昭  
1943年御坂町生まれ  
日本現代詩人協会会員 日本現代詩歌文学館評議員 詩集に『落日探果』ほか。童謡集に『虫らしく花らしく』 エッセー集等

岩崎正吾  
1944年甲府市生まれ  
作家 山梨ふるさと文庫代表 現在 1冊でも本のつくれるオンデマンド印刷機を山梨に導入しようと奮闘中また インターネット上で作家 出版活動をしようと模索中 今春新作ミステリー『探偵の冬』が刊行され 同時に『探偵の秋』が文庫化される

佐藤眞佐美  
1939年北海道生まれ  
日本児童文学者協会 日本児童文学協会 会員 著書に『怪奇!大東京妖怪ゾーン』(ポプラ社)『文ちゃんのはるかな知床』(北海道新聞社)近著に『シレットフのシルバーク』(華炎社)『山梨の童話』(リブリア出版)など

# ふるさとの「宝もの」探し

## かた 甲州弁の語り手

### 昔話を語って30年



早野 潔



藤巻 愛子 さん

ゲスト

#### 藤巻 愛子さん

1940年甲州市塩山生まれ  
山梨むかしがたりの会主宰 日本民話の会会員

ホスト

はやの 早野 潔 早野組社長

#### 「暴れっ川」の悲話 孝行者の笛吹権三郎

早野 民話には、山梨の風土や、暮らし、おじいちゃんやおばあちゃんの懐かしい声がします。山梨の代表的な民話には、どのようなものがあるのでしょうか。

藤巻 どなたも聞いたことがある伝説は「山の背くらべ」でしょうか。富士山と権現が、どちらが高いかを争って、喧嘩をするお話です。富士山は女の神様、権現は男の神様。仲裁役の阿弥陀如来様は、富士山と権現の頭に桶を渡し、水を流して、どちらへ水が流れていくかで背くらべをします。

さて、水は富士山の方へ流れて、権現が日本一の山と決まりました。ところが、富士山はくやしくてなりません。権現が安心して眠っているのを見届けると、丸太で、殴りつけてしまいます。権現の頭は八つに割れて、富士山が日本一の高い山になります。このことがあってから、権現は八ヶ岳と呼ばれるようになりました。

早野 この伝説を、先生の甲州弁の語りで聞きますと、山に神様がいた大昔が信じられ、また、怒りっぽい権現の風貌も、富士山の口惜しがるようすも、さらに生き活きと、身近になってきます。

お国言葉ですから、親しみがあり、くすぐったいような気分にもなりますね。富士山の、気の強い女の神様は「おじゃっか」と紹介されます。背くらべで、頭に桶をのせるときは「ける」というふうには甲州弁で表現されます。

藤巻 山梨は山に囲まれています

から、その昔から、山に対する信仰があるのです。いまでも、富士山で天気占いをしますよね。「富士山の頭に笠雲がかかると雨」などといいます。富士山の笠雲が東に傾くと天気がよく、西に傾くと天気が悪くなる」ともいいます。

早野 八ヶ岳でも天気占いをしますね。「八に笠雲がかかると北風が吹く」と伝えられています。

三富の「笛吹権三郎」も、山梨の代表的な伝説ですね。

藤巻 権三郎は笛の上手な男の子です。大きな岩の上で笛を吹いては、母親に聞かせていたといいます。その音色は、笛吹川の川音にまじって、村の方まで聞こえたともいいます。ある日、その母親を洪水で亡くすのですが、権三郎は母が恋しく、笛を吹きながら、川沿いを探し歩いたと伝えられます。

早野 先生は各地を訪ねて、土地の人たちが大切にしている昔話や伝説を取材されたり、歴史や文化を研究され、また、資料を収集されています。

藤巻 「笛吹権三郎」の伝説をまとめるにあたっては、笛吹川沿いを取材し、世代をこえて40人の方とお会いし、聞き書きをしました。40人のうち、21人がこの伝説を知っていて、記憶をたどってくれました。

昭和の初めまで、「権三郎さんのお仏供の日があった」と思い出してくれた人もいました。命日は7月20日で、この日には「煮っ強飯のおむすびを作って、笛吹川に流し、また、近所の子どもたちに配ったというのです。

早野 「煮っ強飯」というのは、うる

ち米で炊くお赤飯のことですね。藤巻 その昔の、洪水の怖ろしさを語ってくれたお年寄りもいました。笛吹川をヤギやニワトリが流されていったとも、柿の木に何人もがしがみついて助かったとも、当時の洪水のありさまを話してくれました。

その後、明治の水害史を調べてみましたら、笛吹川は45年の間に、35回もの水害に襲われているのです。早野 「笛吹権三郎」は、地域のさまざまな思いのなかで伝えられてきたのでしょうか。

藤巻 笛吹川という「暴れっ川」の悲話ですね。

#### 甲州弁による「再話」 昔話にこころを重ねる

早野 民話の伝承というのは、いつからか、途絶えてしまいましたね。作り話、嘘話ということで、遠ざけられてきました。何ごとも、実利的になって、今日では、タヌキもウサギも、お地蔵さんも、竜神も、登場する余地がなくなってしまいました。そもそも、ふるさとへの関心が薄れてしまいました。

藤巻 「民話」というのは、神々の物語である「神話」に対して、人間たちの物語で、また、文字での伝承ではなく、口伝です。また、民話という世界も広くて、「伝説」があれば、「昔話」があり「世間話」があります。

たとえば「山の背くらべ」や「笛吹権三郎」は伝説で、「かちかち山」や「嫁と姑」などは昔話です。かつては、こうした土地の固有なお話を、土地の言葉で語り伝えてきた人がいました。「語りじさ」「語りばさ」と呼ばれる伝承の語り部です。

早野 先生は、こうした失われつつある民話を取材され、現代の語り部として、甲州弁による「再話」ということをされていらっしゃる。昔話や伝説にこころを重ね、いのちを与えていくお仕事だといってよいでしょう。

藤巻 昔話のかたちを損なわずに、次の世代に伝えたいというのが願いです。そもそも昔話は、何百年も、何千年もの間、お百姓が囲炉裏端や作業小屋で、孫に語りつないできたものです。

ところが、近代になって、情報の発達や都市化によって、語りつぐということが途切れてしまいました。

早野 地域の言葉も、失われてしまいましたね。地域の言葉は、生活実感があり、細やかな感情を表現できるのですがね。

藤巻 お国言葉は、恥ずかしいもの、嫌な感じ、というので排除され、あるいは、封印されてしまいました。

わたしが小学校に入学したのは、戦後すぐの時代でしたが、「きれいな言葉を使いましょう」という教育を受けました。普段使っている「うんたあ」をあらためなさい、「わたし」と言いなさいと指導されました。ところが、なかなか言えないのです。土地の言葉でなければ、自分が自分でなくなる感じがしたのですね。

### 幼い日、湯治場の記憶 はじめて聞いた昔話

早野 小さい頃には、どなたから、どのような民話をお聞きになられましたか。

藤巻 わたしが育ったのは、食べるのが精一杯のせわしない時代でし



たが、冬の農閑期になると、父に連れられて塩山温泉へ湯治に出かけました。いろいろな土地から、さまざまな人がやってくる場所ですから、面白い話が披露されます。子供心に、大人のお話を興味深く聞いていました。そのなかでも、「山の背くらべ」と「尻っぱり嫁」は、とても印象に残っています。

早野 湯煙りのなかで、身振り手振りで語ってくれたのでしょうか。「尻っぱり嫁」は、どんな昔話ですか。

藤巻 昔、器量よしで、気立てがよくて働き者の娘がいましたが、ひとつだけ困ったことがあって、「でっけえ尻をする」のだそうです。「いいけ、嫁にいったら、決して尻はひっちょし」と母親にさとされて嫁ぐのですが、我慢がたたって、顔は青ざめ、病人のようになってしまいます。

姑が「女は女どうし、心配ごとがあるじゃあ言えし」と慰めてくれたのを幸い、打ち明けると、「なんだ、ほ

んなこんけ。屁くれえせえせえ、うっぴりゃれ」と、許されます。ところが、思いのほかの大砲のような屁だったので、嫁は実家へ帰されることになりました。

しかし、亭主は、「屁っぱりは便利だぞう。柿の実は落とせるし、田んぼの雀おどしもできる」と、仲介したので、姑も「ほうだなあ」と納得し、それからというものは仲良く暮らした、という筋立てです。

早野 ただ滑稽というのではなく、嫁、姑の関係をさとすような、示唆に富んでいますよね。

藤巻 甲州名物「かかあ天下にからっ風」ということわざを連想するような、甲州の女性のたくましさも感じます。我慢を強いられてきた昔の嫁の気持ちの象徴なんです。

早野 昔話はよくできていますよね。大勢の人たちに語られることによって、しだいに完成されていったのでしょうか。

藤巻 先祖たちが語りつぐうちに、磨きぬかれていった文芸です。とても覚えやすく、想像しやすく、また、骨太で、リズムカルで、語りやすく、聞きやすいですね。

早野 そして、いずれも、この土地に生き抜いてきた人たちの、確かな人生経験に裏打ちされています。

藤巻 わたしが子育てをしながら、昔話を語ることで、じつは、「自分育て」をしてきた、という経験があります。たとえば、昔話のなかには「継子話」がたくさんあります。継母が子供をいじめて、最後には不幸な境遇に落ちるといった内容です。

母親と子供の愛情を主題としているのですが、子供に語っているうちに、母親として、我が子に対する種々な気持ちを自分に問いかけたり、愛について思いをめぐらせたりするようになりました。昔話は、子供のためばかりでなく、親のためのものでもあるのです。昔話をとおして先人の声を聞くことが、「自分育て」になるのです。

早野 いまは、家庭の問題が深刻で、事件も多い時代なので、ことさらに響くお話です。

### 「肉声」の魅力と癒し 子供の反応、大人の反応

早野 先生は、甲州弁で山梨の昔話を語って30年、持ち話は80話とうかがっています。公演は月に6回にもおよび、期待される人たちも多く、お忙しいですね。お客さまの反応はいかがですか。

藤巻 公民館や、図書館、学校で語ることが多いのですが、ことに子供たちの身を乗り出すような反応に驚

かされます。

わたしたちの時代とは違い、いまの子供たちは生まれながら、すでにテレビがあり、機械の声で育っています。そのせいか、面白い番組を観ていても、楽しそうな人の声がすると、集まってきます。肉声の温かさに敏感なのですね。

学校の先生は「45分の間、落ち着いて昔話を聞いてくれるのか」と心配されますが、じつと、集中して聞いてくれます。わたしと子供たち一人一人が糸につながっている、という体験をします。この糸が、お話の展開とともに、強く張ったり、ゆるんだりします。昔話の魅力が、子供たちのこころをとらえて離さないのです。

早野 大人と子供とでは、どう反応がことなりますか。

藤巻 大人は甲州弁に反応します。なつかしさがっている気持ちが顕著です。たとえば、悲しい場面でも、大人は、ものを背負うことをひっちょって」と語りますと、どっと笑います。「無視する」ことを「しゃらかまあなん」と語りますと、また、どっと笑います。楽しいですよ、甲州弁の魅力を実感します。

子供は物語に感動します。子供にとって、甲州弁は、すでに未知の言葉ですが、甲州弁の用語や言い回しがわからなくても、子供たちはお話全体を楽しむという想像力、感性、能

力がありますね。こうしたときに、昔話の生命力というものを実感します。

早野 子供たちの反応に、甲州弁で語る昔話や伝説の明日を、また、意義というものを、展望できますね。

藤巻 ここ何十年の間に、「語る」ということが、いかに人を癒す力になっているのか、ということをも学びました。きっと、モノの豊かさを求め、せわしない毎日を過ごしているうちに、誰も疲れ果ててしまったのでしょうか。

甲州弁で語る昔話のなかに、人間の温かさ、懐かしさを感じるようになっていくのかも知れません。

早野 子供たちも、機械の声ではなく、自分のために肉声で語ってくれているのだな、という喜びとともに、先生とのつながり、昔話とのつながりを感じるのでしょうか。

### 昔話は無形の文化財 語りつぎたい戦争体験

早野 先生の昔話の普及とともに、昔話を語りたいたいという人たちも増えて、先生の主宰される「山梨むかしがたりの会」も結成されました。どの



ような方が参加され、どのような活動をされているのでしょうか。

藤巻 現在、会員は24名ほどいます。農業をされている方、主婦、自営業、教師、アナウンサーもいますし、お勤めの方もいます。30代から70代まで、女性ばかりです。

この会が目指していることは、甲州弁の民話を多くの方に楽しんでもらい次の世代に語り継ぐ事です。その為に会員は研鑽を積んでいます。一人一人が、昔話や伝説を資料に「再話」をし、自分の作品として、自分の言葉で語れるようにしていくことです。語り口調を大切にしながら、1年1作を目標に、丹念に学習し、完成させ、発表会を開きます。

「再話」ということを土器にたとえてみましょう。土器というのは完全な姿で発掘されません。欠けている部分を補いながら、全体をイメージして、完成させていきます。「再話」も同じで、昔話の世界を学ぶことで補い、さらに、自分の言葉で語れる



ようにしていきます。

早野 昔話という無形の文化財を、次の世代に伝えていこうという活動ですね。

藤巻 先人たちが蒔いていってくれた昔話の種が、「ひと粒、千粒になあれ」という思いです。

早野 今年のこれからのご計画をお聞かせいただけますか。

藤巻 昔話を語っていくことはもとよりですが、戦争体験者のお話を取材すること、伝承の語り手を発掘することです。これからは、フィールドワークに徹しようと計画しています。いましかない、まだ遅くはない、という焦りもあります。

戦争体験者に直接お会いして、生の声を聞き、出征のこと、引き揚げのこと、戦争中の食べ物や、学童疎開のことなどを記録したいですね。

早野 そして、語りつないでいこうというご意志ですね。

藤巻 戦争も民話であると、とらえてみたいのです。

早野 すでに「藤巻愛子が語る・山梨むかし話と伝説・第1集」が刊行されていますが、第2集も待たれます。また、CD「昔話ふるさとへの旅・山梨」が評判です。これを聞きますと、口承文化の素晴らしさを堪能できます。

先生は、ふるさとの「宝もの」を、どっさりとおもちなのですね。

[構成：三神 弘]

## 寄っちゃばって まあ ひとつ 昔ばなしよお 聴いておくんねえ



民話は何百年、何千年もの間を口で伝えられてきた、民族の無形の文化です。そこには庶民の喜びや怒り、悲しみそして願いがこめられています。人間や社会への批判・教訓が盛り込まれています。そして自然を恐れ敬う心が語られています。先人が伝えてきた民話の灯をともし続けていきたいと念じています。



南部町立図書館



昔ばなしは、時空を超えて 昔の心を今に伝えるお国 ことばはぬくとくて、人と人をつなげてくれる。



甲斐市立竜王図書館



加納岩小学校1年生



各地を巡って民話を聞いて歩いている内、よく戦争体験談を聞かせてもらいました。貴重な話ばかりです。埋らさせてはならないと思いました。戦争は二度としてはいけない、その事を子ども達に伝えていきたいと思ひます。



絵本を出版します。甲府の湯田・朝気を中心に取材して創作したものです。絵は旧玉穂町の小学6年生100人が描いたものです。(2007年8月の予定)

戦争体験 山梨の500人の証言 (仮題)

山梨県人が体験した第2次世界大戦の体験を取材しています。2010年出版予定

公演「民話を語る会 平和への願いをこめて」 2007年8月11日：東京都板橋区立文化会館小ホール



山梨むかしがたりの会が発足して5年目。甲州弁の民話に惚れて集まった30代から70代の女衆24人。各地で語りをおっはじめました。喜ばれています。まあひとつ、聴いておくんねえ。

『藤巻愛子が語る 山梨のむかし話と伝説』 藤巻愛子著 甲州弁民話房 1,000円 (第2集は2008年出版予定)

『昔話ふるさとへの旅・山梨』 語り：藤巻愛子 キングレコード 2,000円 販売・問い合わせ：甲州弁民話房 TEL/FAX 0553-33-4004

今年は例年になく「暖冬」である。年末から年始にかけて長野県と新潟県の豪雪地帯として知られる地域に仕事で行って来たが、例年ならば銀色の世界になっているはずなのに、雪がまったくなかった。積雪不足のため各地のスキー場では、競技大会が中止になったり、雪をかき集めてきてようやく営業を続けているところもあるようだ。筆者も大学時代に行ったことのある群馬県高崎市の榛名湖では、1月下旬から2月上旬にかけて氷上のワカサギ釣りが解禁されるが、湖面の氷結が十分に進まないために、安全第一を考え今年は中止したと、地元に住む知人から連絡があった。

東京都心でも未だ初雪が降らず(3月10日現在)、気象庁が明治9年(1876)に観測を始めて以降、初雪がもっとも遅かった記録(昭和35年2月10日)を更新した。

どうして今年は暖冬なのだろうか。気象庁によると、二酸化炭素などの温室効果ガスの増加による地球温暖化に加え、太平洋東部の赤道付近の海水温度が上昇する「エルニーニョ現象」と北極圏が寒気を周期的に放出したり、蓄積したりする「北極震動」が蓄積期で、寒気が南下しにくいことが主な原因であるという。

地球温暖化は自然現象だけでなく、人の健康や命にも悪影響を及ぼし始めており、このまま地球の温暖化が進むと、熱波による死者の増加や花粉症の悪化など、健康被害が増加すると、国連の政府間パネル(IPCC)第4次報告書は警告している。IPCCは世界気象機関などが、気象変動を科学的に総括するために1985年設立され、これまで3次にわたる報告書を出している。

今回の報告書によると、温暖化が

山梨学院大学  
経営情報学部教授  
宮塚利雄

## 地球温暖化は人間社会に対する危機の警告

このまま進むと、2050年頃には水不足に見舞われる人の数が最大で20億人増えるなどと予測し、これまで温暖化の影響は社会基盤の整備が遅れている発展途上国や小さな国にもっとも深刻な打撃をもたらすとされてきたが、異常気象や熱波の被害は先進国でも避けられない状況をもたらすという。

今後も化石エネルギーに頼り、高い経済成長を重視する社会が続けば、2050年頃に気温が1990年比で2~3度上昇し、生物の20~30%が絶滅の危機にさらされるという。さらに2080年頃には3~5度上昇し、水不足が最大32億人増加するほか、世界の5人に1人が洪水の影響を受ける恐れもあり、さらに熱波や台風、<sup>かんばつ</sup>早魃などの異常気象によって、農業などにも大きな影響を及ぼすと警告、食糧不足で飢饉に

悩む人口も最大1億2000万人増える可能性があるとして予測している。地域別の影響としては、アジアでは洪水の被害が深刻化するという。

日本に関しては冬の平均気温が3度上昇すれば、北海道を除く本州のほとんどのスキー場で積雪が減り、スキー客は3割以上減少するという。また、降雨量が増加し、梅雨の期間が長くなり、特に西日本で夏季の降雨量が増えるが、一方では雨が降らない日が続くこともあり、深刻な水不足になる恐れもあるという。地球温暖化が人間社会に及ぼす影響は甚大である。アメリカを襲ったハリケーン・カトリーナ、ヨーロッパを襲った熱波など、将来起こると思われる異常気象がすでに現実のものになっている。

テレビなどのコマーシャルでよく「地球に優しいエネルギー」とか、「環境に優しいエネルギー」などという言葉が聞かれるが、今や地球温暖化を防ぐ努力は全世界が取り組まなければならない急務である。日本は、京都議定書で定められた2008年から2012年までの5年間の温室効果ガスの平均排出量を、基準年(1990年)に比べ6%削減することである。しかし、中国やインドといった将来の排出大国、現在の最大排出国・アメリカなどが温室効果ガス排出削減に本格的に取り組まない限り、問題は解決しない。映画「不都合な真実」などを通じた気候変動問題の啓発活動で、アメリカの科学誌が「06年にもっとも影響力のあった政策指導者」に選んだアル・ゴア元米大統領は、「私は地球温暖化といわず、気候クライシス(危機)と呼ぶ」と言ったが、暖冬は異常気象であるばかりでなく、人間社会への危機の警告でもある。

高齢化社会の訪れとともに、年々関心が深まる福祉問題。それは核家族化・少子化の問題と対比されて、看護や介護の必要性は社会にとって、もっとも重要な課題となっている。

そんな中、正しい知識と資格取得への豊富なカリキュラム・確かなネットワークからなる実技学習。まさに、これからの福祉へ、大きく飛躍する学校が開校された。

人により対応はさまざま...  
学科だけでなく  
質の高い実技経験が大切。

今年4月に設立された、学校法人優和学院・優和福祉専門学校は、学校法人として認可される、さまざまな厳しい条件をクリアし、開校にいたった。2年間の就学期間を要する、全日制の「介護福祉科」の各教室には、実技で使用する備品をはじめ最新の設備が備えられている。

ここでは、介護福祉課のカリキュラムにそって、基礎学習から専門分野の知識まで経験豊かな講師の元で学ぶことができる。

取得可能な資格は、ホームヘルパー2級を初め、福祉用具専門相談員、精神障害者ヘルパー、介護予防運動指導員等。

「学科だけでなく、実際に人と関わる実技が大切なんです。介護はそれぞれ人により求められる事がちがいます。知識だけでは対処できない事もあるんですよ」と武内博昭事務長。



入浴実習室

ここでは、実際に介護業務を行っている事業所の協力を得て、介護の難しさや厳しさを在学中から学ぶ事ができる。

「介護福祉科」と  
「優和スクール」

優和福祉専門学校では、「介護福祉科」とは別に、既に就労している人やさまざまな環境の方に、より広く福祉の知識や、技術を学んでもらえるように「優和スクール」も同時に開校した。既に、介護事業所で就労している人も資格の取得と知識の向上を目的として入学してくる。

正しい介護の知識は、介護する人も、される人も、お互いの負担を減らす近道となる。

「学校としての役割も大切ですが、



優和福祉専門学校

2007年4月に開校。学校法人優和学院 優和福祉専門学校は2年間の就学期間を要する、全日制の「介護福祉科」の他に現在、就労されている方やさまざまな環境の方にも幅広く福祉の知識や技術を学んでもらえる様に「優和スクール」も同時開校。充実した内容で豊富な知識や技術を学ぶ事ができます。

〒409-3853  
山梨県中巨摩郡昭和町築地新居374-1  
☎055-268-6001

学校法人 優和学院  
優和福祉専門学校



ここが介護する方たちの集う場所としても活用して欲しいんです。」

専門学校としての  
今後の展開と活動

これからの、専門学校の役割と活動について武内事務長は、「社会への貢献が出来たらと思いますね。例えば、自宅介護等で問題を抱えている方たちを集めてセミナーなどを開催したり、ヘルパーさんには、より質の高い介護の為に学べる勉強会などを開催したいですね。」と今後の抱負を語ってくれた。

現在でも、ヘルパーさんたちのために、実技講習を実施しているとの事、今後は法改正に伴って、ますます介護福祉士の数が必要となる。より多くの人に、介護福祉への道を歩んでもらいたいために、正しい知識と豊富な実技経験をもった介護福祉士を育てたいと意欲的だ。

情熱をもった学校理念が、これからの福祉社会へ大きな一歩を踏み出していく。

# 何気ない朝の食卓。

ご近所のパン屋さんの焼き立てブレッド、  
ゆで卵に山盛りサラダ、レモン水。  
オレンジ色のミニトマトは親戚の家庭菜園で作られたもの。  
わざわざ甲府通運で送ってくれたものです。  
何気ない朝に、さりげない甲府通運？



流通の基本を大切にその先へGO  
**甲府通運株式会社**

本社 〒409-3845 山梨県中央市山之神通団地3329-9  
TEL.055-273-0611 FAX.055-273-9332  
田宮営業所 〒409-3845 山梨県中央市山之神通団地3211-14  
TEL.055-273-5471 FAX.055-273-6277

- |                         |                          |                             |
|-------------------------|--------------------------|-----------------------------|
| ● 車載品輸送（取り付け、取り外し搬出入作業） | ● 入出荷検査（荷造り、梱包作業、出向代行業務） | ● 一般貸切輸送（一般、専用、専用）          |
| ● JISコンテナ輸送取り扱い         | ● 一般貨物全室空調               | ● 引越輸送（事務所・工場の移転、ご家庭のお引越し等） |
| ● 航空便取り扱い               | ● 産業廃棄物収集運搬              | ● 宅配便                       |
|                         |                          | ● 生命保険の募集及び損害保険代理業          |

# サークル訪問

汗で育つ 感性が光る  
街にめばえる文化探訪

長唄を気軽に楽しみ、年に1度の晴れ舞台で披露している仲間

## 活動を通じ、 伝統音楽の魅力を 広く伝えていきたい。



### 長唄を楽しむ会

歌舞伎の舞踊の伴奏を三味線と唄でつとめる、劇場音楽の長唄。長唄を楽しむ会はその名のとおり、長唄を楽しむ、多くの人にその魅力を伝えたいと活動しているグループだ。高校生から80歳代までの幅広い年代のメンバーが集まり、気軽に伝統芸能を楽しんでいる。

発足は5年前の2002年。会主であり、三味線の先生でもある杵屋勝静也さんの呼びかけから始まった。「長唄の三味線というのは、実はあまり知られていず、もっと多くの方

に本物の長唄を知ってもらうとともに、気軽に楽しみ、親んでもらえる機会を作ればと思いました」と気さくに語ってくれた。伝統芸能というと、礼儀や作法が厳しく、容易に習うことはできないというイメージがあるが、「古典芸能ならではの堅苦しさを難しさを取り除き、もっと多くの人を楽しめるものにしたかった」と勝静也さん。初心者でも気兼ねなく楽しめるよう、1年をかけてじっくりと身に付け、年に1度の発表の機会にその成果を披露するという独自のスタイルを展開。また1年ごとに活動を続けるか確認する機会を設けていて、家庭の事情などで休まざるを得なくなっても、翌年また復帰できるというのもこの会の魅力だ。

毎年12月に開催している発表で

は、東京から招いたお囃子や鼓のプロの方と一緒に舞台上、メンバーが唄や三味線を披露している。まさに晴れ舞台で、みんな着物姿で決め、1年の練習の成果を思う存分発揮している。「プロと一緒に舞台上に立つことはとても貴重な経験で、メンバーにとって大きな励みや喜びになっています。また本物の唄と三味線を聴くことも大切です」と勝静也さん。聴きに来られる観客の方にも、長唄の魅力や感動を伝える絶好の機会となっているようだ。

「1人でも多くの人に興味を抱いていただければ、これからも長唄ならではのダイナミックな音楽を披露していきたいと思います。」

長唄を愛するメンバーの気持ちがこもった舞台は、きっとこれからも多くの人を魅了していくことだろう。



長唄を楽しむ会  
2002年に発足。メンバーは約30人で、高校生から80歳代まで幅広い。練習は長唄が毎月2回、三味線は4回開催。三味線は初心者向け、上級者向けがある。毎年12月に発表の場を設け、プロと共演している。

問い合わせ 杵屋勝静也 会主  
連絡先 〒400-0052 甲府市城東2-8-16  
☎090(4624)5752

山梨で始まった私の子育てライフも、4年が経ちました。現在の住まいは夫の転勤先、仙台。息子が2歳から3歳の間に地方都市をめまぐるしく3度も移動する、激動の4年間でした。毎回原稿の執筆のたびに住まいが変わる経験も、これまた貴重なものです。

米どころ宮城に住み始めたのが、新米収穫の時期。裏の田んぼが黄金色に染まり、風になびく様がそれは綺麗なものでした。

幸か不幸か、ちょうど同じ頃、我が家の炊飯器の限界が訪れ、新規購入を検討することになりました。

お米は電気炊飯器で炊くのが当たり前だったこれまでの生活。出かける前にタイマーセットは忘れずに、などとかけ声をかけたくなる程、お米の味や炊き方には無頓着だったこの私。しかしながら、家族の健康を考え、せっかくの米どころならば、ご飯を美味しく炊いてみたいとなりました。持っていた土鍋で早速挑戦。するとタイマーセットでは味わえない感動がおこったのです。

## 米を炊く

エッセイスト  
深谷 百合苗

始めは強火。次にコトコト弱火で炊き上げる。ほのかにこげたにおいと、パチパチとした音を見計らって即火を消す。そして蒸らす。毎回じっくり観察しなければ、タイミングはつかめません。

おこげの出来具合もまた楽しみの一つ。作業すべてが真剣勝負です。

お米の状態や火加減、作る人の五感の違いによって、毎回仕上がりは違います。なんという芸術でしょう。こんな素晴らしい感動を今まで味わわずに過ごしてきたなんて、実に勿体ない話。なおかつ息子にとっても何にも勝る教育であり、最高の贅沢と感じました。

炊飯もどきで、かかりきりにならないのには、誠に非効率ではありますが、しかしながら、手をかけて作ったご飯には愛着もあり、息子もすっかりご飯を平らげるようになりました。

素材を見極め、自らの感覚を存分に使って調理し、タイミングを見極める直感を養う。日本人が最も身近なご飯を炊く作業から、電気のプラグ一つを外すだけで、どこか忘れかけてきた感性やテンガを蘇らせてもらった気持ちになりました。

子育ても日々の生活も、素材の持ち味をじっくり見極めながら行ってゆきたいと思う今日この頃です。



土鍋で米を炊く



子供の作品より

## えんざん桃源郷 ひな飾りと桃の花まつり

甘草屋敷(旧高野家住宅)は、JR中央線塩山駅北口より歩いてすぐのところにあります。屋敷の名は、江戸時代、八代將軍徳川吉宗の頃に薬用植物である「甘草」を栽培し、幕府に納めていたことに由来するといわれています。

えんざん桃源郷「ひな飾りと桃の花まつり」は、春の訪れと桃の節句を祝うイベントで、屋敷内には享保雛、古今雛、御所人形、ひなの吊るし飾りといった江戸・明治・大正・昭和に亘る各時代のひな飾りが多数展示されます。今年の開催期間は2月10日(土)~4月18日(水)迄です。

特に、天井からたくさんの飾りが舞う「ひなの吊るし飾り」は、豪華な

壇飾りとは違ったかわいらしさ、親しみやすさがあり、私たちの目を引きまします。その歴史は古く、江戸時代に遡るといわれています。飾りは生まれてきた女の子の無病息災、良縁を願い、家族や親類によって、祈りを込めて手作りされています。

(参考資料：第5回 えんざん桃源郷「ひな飾りと桃の花まつり」パンフレット)

## 川中島合戦戦国絵巻(4月中旬)

祭りに参加して、ふるさとも感じてください。山梨には他にもたくさんの祭りがあります。

笛吹市石和町川中島で行われる、戦国武将武田信玄と上杉謙信の戦いを再現した壮大なイベント。石和温泉桃の花祭りのラストを飾ります。総勢800名もの鎧武者が出陣。見所は信玄と謙信の一騎打ちです！一般の方も鎧を着て合戦に参加できます。(但し要予約)



## INFORMATION

### コストクオリティで選ぶ。ネットからの新提案です。

クルマ選びで重要なのは、機能や安全性・走行性はもちろん、購入時の費用や燃費などのコストです。ネットではコストとクオリティを高いレベルで両立させた理想的なコンパクトをご用意しました。ぜひ一度お試しください。

比較

Vitzの燃費  
Vitzの燃費  
Vitzの安全性

bBの燃費  
bBの燃費  
bBの安全性

ネットヨタ甲斐(株)  
本社：甲府市朝氣3丁目10 21 TEL055 232 5511

### 「美しい家の」づくり方



誰もが振り向くような家づくり  
家族が安心して暮らせる家づくり  
間違いのない確かな会社選び  
無理のない返済ができるローン

続きは、トヨタホームの展示場で!!

トヨタホーム山梨(株)  
本社：中巨摩郡昭和町河西1043 TEL055 275 1234 FAX055 275 7806  
<http://toyotahome.mediagalaxy.ne.jp/yamanashi>

### 絵の効用

趣味で水彩画を始めて11年になる。今後、描き溜めた絵の個展を開きたいと思っている。余暇を利用してスケッチしたものや、仲間と出掛けてはスケッチしたものなど、自己流ではあるが、四季折々の風景を一枚の絵に写し取っている。名勝ではなく、どこにでもある何気ない風景を題材にしている。

スケッチ画は短時間で描き上げる。全体の構図を考えながら、印象的な部分をさりげなく際立たせる。それが強すぎると不自然となり、バランスが悪くなる。筆のタッチや色の使い方でも、絵の雰囲気は大きく変わる。主観的、直感的なセンスとともに、現象を客観的にとらえる

観察力が必要なのか、やればやるほど奥が深い。「絵」を描くことは、普段の仕事にも通じること。世の中の情勢を客観的に観察しながら、直感的なセンスを働かせて策定する将来ビジョンだ。美しい絵は構図がしっかりしている。掲げる目標や達成スケジュール、それに必要な経営資源の調達などをより具体的に表現する。今はコスト至上主義の側面が強い部分もあるが、殺伐とした光景よりも、ほのぼのとしたぬくもりのある風景を見出せるよう、お客様との連携を密にしたいものだ。



甲府通運(株)  
本社：中央市山之神流通団地3329 9 TEL055 273 0611

## INFORMATION

### 太陽光発電システムの施工充実を

区画線等設置工事の他に、道路・公園整備景観整備工事の安全で快適な環境づくりに加え、地球環境の一助となる太陽光発電に力を入れています。

ご自宅の屋根が  
太陽光発電所



当社の電気工士が、メーカー主催の設計・施工を主体とした技術研修に参加し、ノウハウの蓄積に努めています。



(株)ロード 本社：甲府市下小河原町262番地 TEL055-241-616(代)  
FAX055-241-6118 e-mail [uproad@pluto.plala.or.jp](mailto:uproad@pluto.plala.or.jp)

### やさしい手甲府、甲府西事業所開所と本部移転のお知らせ

地域密着型サービス(介護保険対応サービス)

小規模多機能型居宅介護

甲府市上石田1-7-14  
(美術館通り沿い)

3月26日新築オープン!  
臨時見学OKです!

やさしい手甲府西事業所・本部



(株)やさしい手甲府  
本部：甲府市上石田1-7-14 TEL055 236 6210  
<http://www.yasashiite-kofu.co.jp>

### 早野組、開発部から

開発部では、不動産に関してお客様の立場に立って、はじめの一步から企画・提案させていただきます。

私たちは『環境にやさしい』を  
合い言葉に『最も効果的な土地の有効な活用方法』  
の企画・設計・提案を通して、お客様に満足していただけるサービスを提供いたします。

開発部の詳細は早野組ホームページをご覧ください。

(株)早野組 本社：甲府市東光寺1-4-10 TEL055 235 1111  
<http://www.hayano.co.jp>

### 永禄四年川中島合戦に散った 武田家の副将軍、 その悲劇の武将の足跡を追う

## たけださまのすけのぶしげ 武田左馬助信繁

### 上野 晴朗

うえの はるお  
1923年山梨市生まれ 歴史家・作家  
県立図書館郷土資料室を経て67年から  
文筆活動に入る 著書に「甲斐武田氏」  
等多数



武田信繁画像(典厩寺蔵)



武田信繁の筆跡



典厩寺の表門(長野市杵淵)



典厩寺にある武田信繁の墓

武田信繁は信虎の二男として、大永5年(1525)に生まれている。母は大井夫人であるから信玄の同母弟、幼名を次郎、元服して左馬助に叙任された。典厩信繁ともいわれているが、これは左馬助の唐名が典厩だからである。

伝によると、父信虎は柔和で且つ聡明な信繁を溺愛し、武田宗家の跡を継がせようと図ったり、晴信を故意に退けようとしたので、若き日の晴信と家臣団のために、駿河の今川義元の許に追いやり隠居させられてしまった。

武田信繁の動きを追ってみると、兄晴信に代わって武田を支配しようという意図など微塵も見えず、兄に副将として素直に仕え、家臣団からもその評価は高いものがあった。

信繁は子息信豊のために九十九

カ条からなる、武士道の教訓を残してやったが、これは信豊ひとりだけのものではなく、武田氏の武道の規範にすえられているのである。副将軍であるため、その屋形は武田氏館のすぐ南に隣接して造られていた。

ここで信繁が壮烈な戦死をとげた永禄4年(1561)9月9日の川中島大合戦の様を振り返ってみよう。この戦いは両軍とも忿怒の跳躍がまさに何時下されるかにかかっていた。そして先に動いたのが信玄の軍勢であった。信玄は軍議を重ねた末に、軍団を二分して、一隊を上杉謙信のこもる妻女山に向け、一隊を川中島の原頭に配して、狭撃戦を展開しようとしたのである。これが有名な山本勘助が進言した「啄木の戦法」であった。

ところが謙信側はこの武田軍の夜

からの行動を察知して9月10日の明け方には密かに妻女山を抜け出して、信玄本陣目の前の川原に布陣してしまった。そして二手に分かれ手薄となってしまった武田軍の本陣に奇襲攻撃を仕掛けてきたのである。

この越軍の猛攻に武田の本隊は明らかに戦況は不利、たちまち本陣隊形は崩れて押しまわれ、そしてついに午前8時ころ、武田信繁が壮烈な戦死をとげてしまうのである。

信繁のこの日の扮装は、椎形型の冑に額に武田菱の金の前立が付いており、鎧は黒系威の具足、紺地の母衣を付けていた。その母衣には金文字で法華經の陀羅尼品が、信玄の直筆で書かれていたという。

そのような扮装の典厩信繁が突然危機に陥ったのであるから、武田本隊の動揺は激しく、とくに信繁のい

た右翼の先端が総崩れとなり、その真中で指揮を取っていた信繁が矢面に立つ形となり、戦況の不利を察知した信繁は家臣の春日源之丞を側に呼び、身に付けていた母衣を手渡し、これを吾が子信豊に手渡してほしいと頼んだ。源之丞は殿のお傍で死にたいと言ったが、信繁は聞かないので致し方なくその母衣を受け取ったという。

その直後予感通り、信繁は越後勢の野尻、熊坂、関川らの面々に襲いかかられ、たちまち体勢を突き崩されて、川中島中沢の地で、信繁はついに壮烈な戦死をとげてしまうのである。この壮絶きわまりない死闘の姿を、江戸期の軍記物はいろいろに興味深く書き立てている。

一書には上杉方の武将、宇佐美駿河守定行が黒系威の大鎧を着し、勇壮な胡摩殻形の冑をつけて槍を鋭く突きたて、信繁の横腹を突いたので、馬からどっと落ちた信繁は、ついに壮烈な戦死をとげてしまったとある。

しかし、いやそれはあくまで宇佐美を称える虚飾の美談で、本当は宇佐美の郎党が鉄砲を放ち、その弾に当たって信繁は最期をとげたという記録もある。

この戦死の状況は、まさに現場を見ていた者でなければ掴めない内容だろうけれども、甲斐国に伝わる話の方には、勇将内藤修理亮昌豊が援軍に駆けつけたり、また千曲川の流れを浮き沈みつつ行く信繁の死骸を、敵に渡してはならじと、典

厩の家臣横田主水が必死に死骸を河瀬から引き上げて首級を奪われることをまぬがれ、のちに水沢村に葬ることができたといわれている。さらにこの合戦では信繁に続いて勇将の諸角豊後守昌清が午前9時頃討死、続いて10時ころには軍師とうたわれた山本勘助も、「往くことは流れの如し……」とつぶやいて、壮烈な



川中島合戦での武田信繁の活躍ぶり

戦死をとげてしまったという。

そして武田軍が漸く立ち直り、体勢を挽回して逆に上杉軍を逆襲、追い詰めるようになったのは、10時過ぎに妻女山に向かって別働隊が川中島の合戦に気付き、引き返してきて挟み撃ちの体勢が整ったからであった。

こうして信繁の戦死をめぐる諸説が入り乱れているけれども、とくに注目できるのは、実際には越後の梅津宗三が川に飛び込んで首級を取ってしまったけれども、それを見た武田側の山寺佐五右衛門が、今度はその首級を奪い返して、信繁

の胴へつなぎ合わせた場所があり、そこを胴合橋と呼んでいる処などもある。

また信繁の菩提寺典厩寺の由来などをみると、この寺はもと鶴巢寺とあって、この合戦の時、信繁隊の陣営になっていたといわれ、信繁がこの付近で討死したので遺骸を当時の境内に埋め、典厩塚と称したのだという。

さらに元和8年(1622)松代藩主の真田信之が、寺号を典厩寺と改め、それ以来、甲越両軍の戦死者の慰霊を行うようになったのだという。

さらにこの地方には錯綜した話が伝わっている。親子の問題で苦しんだ信繁と信玄の子信義が非常に仲がよく、寺には信繁から信義に形見として贈ったと称する観世音の話があり、その遺言状まで蔵されているが、私は偽書と見ている。

またこの地方には信繁に結びつく縁の家があって、たとえば信更町吉原の中沢唯延家は、もと旧更級郡今泉村花倉にあって、そこには信繁の館まであったと伝えている。そして信繁の戦死後菩提寺として天宗寺が建てられ、信繁の妻(小笠原氏)を開基として、以来武田ゆかりの人々が跡を継ぎ天宗寺を守ってきたが、なかでも武田義信の妻(今川氏)が来て寺を守り、生き延びた義信もこの地に逃げてきたといわれる伝承もある。また信虎も吉原に来た形跡があるというのである。すべてがこの地方の伝承に過ぎないけれども、一応記録にとどめておく。



の他郷に人馬を提供する「助郷」も負担だった。大きな穀商も軒を並べ、紙・塩問屋、信州の酒問屋、両替屋、太物屋もあった。旅館は安永の初め(十八世紀末)には三三軒を数えたが、維新で激減し、明治四年には一八軒となっていた。宿に入つてすぐ東側が本陣と脇本陣。お茶壺道中の探茶使を泊め、参勤交代では信州の高島、高遠、飯田

の各大名を投宿させた。間には武家や町人、芸人も逗留する。両本陣は宿の民政にかかわる届、願に奥書捺印をして奉行所に取り次ぐ役も負った。明治四年の記録では、本陣の敷地は間口一五間、奥行二〇間、建物は一六七・五畳、二二間だった。

『甲府略史』甲府市役所・大正七年(1918)によると、甲府柳町本陣は柳沢治世の頃(十八世紀初め)から深沢氏が勤め、八左衛門、藤右衛門と襲つて幕末の頃は藤井屋深沢庄太郎の代だった。小説「榎山節考」の作家・深沢七郎の旧宅である。維新後宿駅制度も廃され、売り食いである。暮らしていた本陣・深沢家の祖父は終生ちよんまげを切らなかつた。すぐ上の兄までは



新刊「近代山梨の光と影」  
山日ライブラリー ¥1,200

甲州道中(街道)は名のとおり金手で直角に南に折れる。八日町の通り(現城東通り)を直進して、穀問屋や紙・肴の問屋が並ぶ一丁目のはずれ、印傳屋のところに信号、中央(が)札の辻の高札場で柳町宿の入口で

ある。南北に交差する道が魚町通り。その先が「八日町見付」(NTT西)。真つ直ぐ進めば甲府城の二の堀と八日町御門だが、街道は南に折れる。南北の通りの北側は柳町一丁目。武田信玄の頃

の金座の一つで、江戸期、甲州金鑄造を唯一公許された松木家が、正徳年中(十八世紀初め)頃、人馬継ぎ立てのための問屋場を引き受けていた。問屋場が加藤家に替わり、三丁目に移つてからは旅館屋が林立した

が、経営に苦しみ、飯盛女を置かせてくれるよう度々願っている。見付を南に折れば宿の中心。旅人の休泊のほか人馬を継ぎ立てて通信・運輸の手段を提供するのを大きな任務とし、公用の伝馬も初め五〇匹、後には二五匹を常備した。皇女和宮の向(文久元年)あるいは第二次長州征伐(慶応元年)のよ

### 甲州道中甲府柳町宿(甲府市中央)

山梨県立図書館長

福岡哲司

こんなところに山梨 思いがけない場面で ふるさと再発見

## お茶の間の民俗学

愛されて郷土に伝承される芸能を紹介

五月三日、晴天の祭りの広場では豚汁、強飯のおにぎり、お酒、煮ものなどが地区の女性らにより自由に振る舞われ、新緑の中で頂くそれらはとてもおいしかった。

十二時になると花火が打ち上げられ、これを合図に各地区の御輿が次々に甲弓山の八幡神社お堂にあがる。山道ははなはだ急坂であり、ただでさえ上がるのが困難だから重い御輿を担ぐ人たちは大変で、加えてお酒も入っているからなかなか進まない。

十二年に一度のこの祭りを見ようと県内外から集まつた大勢の見物人もたくさんいて、これらも後からぞろぞろ山を上る。新緑の間に色とりどりの法被が上がる様子を下から眺めるのはなかなかいいものだ。立ち止まり振りかえれば、集落が眼下に見えて緑の風がわたる。気持ちよいひとときである。

### 幡野八幡神社お開帳の祭り(二)

大月市猿橋町

劇作家 水木 亮

著書「山梨の民俗芸能」勉誠出版 ¥1,800



普通は三、四〇分で上げられるところを一時間以上はかかる。頂上に着くと、お祈りがあり、樽酒が割られてみんなに振る舞われる。汗をかいた後でもありこれが大変つまい。つい飲み過ぎてしまう。

ここから神楽が始まる。まずは幡野地区の獅子舞である。これは男神楽でその後は女神楽と呼ばれている。いずれも一人立ち

の獅子舞が中心である。狭いお堂の庭は見物の人々であふれ、押すな押すなの状態で神楽を見物する。これらの集落の出身で都会に出た人達が久しぶりに祭りを見物するという人が多く、これらの人々と神楽を見ながら親しく話をするのも出来る。庭の周辺には酔って寝ている人もいる。

午後五時、今度は御輿を担いで山を下る。

快い酔いにまかせながら、やや太陽の傾いた坂道を下る。次の祭りは十二年後である。かなり老齢の人たちもいる。私を含めてそれまで生きていられたらどうか。生きていても果たしてこの急な坂を上がることが出来るだろうか。もしかして親しく話しをした人に再び会えるだろうか。老いて誰もが皆、この坂を下りながら考えたことであろう。祭りはほんとうの自分に語りかけるやさしい時間でもある。

やまなし・ふるさとの歌と芸能をたずねて



山腹に今を盛りと咲くヤマツツジ

一隅に「百蔵大明神遺蹟」の石碑が立つ広々とした山頂

山頂南面に咲くサクラと残雪の富士展望(サクラの花期は4月22日頃)

大月市猿橋町の北にあり、JR中央線や中央自動車道からもよく見える山である。富士山の展望にすぐれ、山頂で富士と桜の組み合わせが見られる数少ない山のひとつだ。短時間で登れる。猿橋駅から国道20号に出て右へ、すぐに左折して中央道の下から葛野川を渡り県道で右折、間もなく左折して坂の町を登っていく。市営グラウンドの脇から和田美術館の西を通り、山の神の祠の下から登山道が始まる。杉の木立の中の歩きやすいコースだが、やがて小石が多くなる。いくつか周囲は赤松の林となり、林の切れ目から富士が垣間見える。松も少なくなると雑木林の中を登るようになると、やがて尾根に出る。左は葛野へ下るコースで、右に散歩道といった尾根道を辿って、もう山頂は近い。

到着する百蔵山頂には松が点在し広々としていて、公園風である。北の一隅には「百蔵大明神遺蹟」の石碑が立っている。南には桜が植えられていて、その向こうに残雪の富士山が佇む。見下ろす眼下には、桂川、JR線、中央道が光って、まるで航空写真のよ



【参考タイム】

猿橋駅	(40分)
市営グラウンド	(20分)
山の神	(1時間)
百蔵山	(45分)
百蔵浄水場	(45分)
猿橋駅	

うだ。帰りは反対側を下ろう。ずっと雑木林の中だが、やや急である。足元には十分気をつけて下降が大事だ。降りたつた所には新しい百蔵浄水場がある。坂の町の中を猿橋駅に戻る。マイカーの場合は、浄水場の上を迂回して和田美術館の上に出れば駐車場がある。駐車場西端の上部に山の神が祀られている。

手

元に和紙を綴じた横長の帳面がある。題名はない。内容を見ると、京都大坂迄四日限仕立」とか、東海道宿々取次」とあるので、飛脚屋が覚えとして記録したものと推測される。

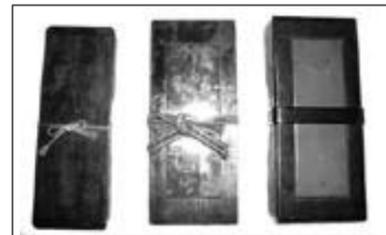
その第一枚目に「江戸御届物賃銭附」とあり書状や刀の運賃が書かれている。以下現代文に読みなおすと次のようになる。

- 一 御状箱(註 書状を入れて相手に届けるもの。公式文書や武士間で使われる場合が多い) 一 式 四ツ谷迄 三十式文 但し薄くて巻通入りの場合で大型の状箱の場合は割高となる。又、届先場所の遠近でも料金が異なる。
- 一 御刀巻振 七拾五文 一 御脇差 五拾六文 御弓巻張 二付四拾八文 御槍巻筋 百文 但三間槍は百三十二文
- 一 御長刀巻振 二付百文
- 一 金巻両 二付拾六文 但金巻両内は金巻分(巻両の四分の一) 二付五文ツツ
- 一 式朱判(巻両の十六分の一) 巻両二付三拾貳文 但拾両二付三百文巻 (虫食い) 二付四文ツツ

槍一筋の江戸までの運賃は? 昔も今も送り主の気持ちは同じ

林 陽一郎

はやし よういちろう  
甲府市教育委員会文化振興指導員  
山梨郷土研究会



状箱 左は薄板造り、表に宛名を書き1回のみ使用、中は木製、右は皮製、表の朱塗り部分に宛名を書き拭き取れば何度か使える。

以下、届先場所等が記してあり、以上は文政九年(一八一六)二月に御役所に書上げ提出したと結んである。

刀や槍を江戸へ送るのはどう

いう時か考えてみると、甲府城常備の武器の移動は勤番士の指揮で運ばれるが、飛脚屋の手で運ばれるのはどういう時であるのか。甲府から移動を命ぜられたとき、あるいは隠居の身となり江戸へ帰る場合には、自分の武器は自己負担で運ぶこととなる。勤番の武士となれば、刀が一本しか持っていないと云う人は少ないと思われる。さらに弓や槍、長刀を所有している人もある。こういう人々が引越をするするときには、自分の差している刀や脇差は携帯して行けるが、弓や槍はかえって荷物となってしまう。武士といえども旅の場合には、普段差している刀よりも軽量の刀を差して旅をするといわれているので、家伝来の重い刀は別に運んでもらいたくなるのが、一般的な考えかもしれない。そこで、町の飛脚屋にこれらの武器を運んでもらうことになる。飛脚屋は特別に人足を出しては運ばず、一般の荷物と一緒に目的地に届けば料金も安くなる。刀は刀専用の細長い箱に入れ、これを他の荷物と一緒に「明け荷」と呼ばれる大きな行李(現

在、相撲力士の身の廻り品を入れておくのも「明け荷」と云っている)に入れて馬につけて運ぶのである。槍や長刀も包装を厳重にして馬につける。この場合幸領と呼ばれる責任者が荷物に同行するので、荷は安全に目的地まで運ばれることとなる。

この刀巻振り七十五文の代金を、現在に換算するとどの位の金額になるのだろうか。物価に対応する相場で、一両を現在の金額で二十万円相当とみると、一両は四千文(幕末には六千文動定とも云われた)として一文五十円となり、七十五文は三千七百五十円、槍の場合は百文なので五千円の価値となる。現在の宅配便と比較するとどうだろうか。ゴルフの道具を前もって宅配便で送って、自分は身軽で出かけるのと同様、当時の人たちは長い槍や重い刀は専門の運送業者にまかせて、身軽な旅をしたかったのかもしれない。

家財道具などは、現在の家庭とはちがいが、普段使う台所用品などは近所や知人に使ってもらい、衣類や書物などは長持に入れて飛脚に頼んだようである。



行くことも多いそうで、「力があって安定しているアルファードは、高速道路の運転もまったく疲れません。乗り心地もよく、遠くにも安心して選手を乗せていけます」と大きな信頼を寄せている。

信頼感は車だけでなく、担当の営業に対しても同じだそうです。「15年間同じ営業の方に担当してもらっているの、うちの家族構成はもちろん、生活スタイルまで分かっ

てアドバイスしてもらえて、いつも満足しています」と龍吾さんと奥様の設栄さんご夫妻は、そろってトヨタ車ユーザー。15年間トヨタ車以外に乗ったことはないそうで、これまでに乗った車はご夫妻合わせて9台。現在、龍吾さんはアルファード、設栄さんはbBに乗っていて、奥様のbBは仕事でも大活躍しているそう。

「車の販売などと同じように、医師も今はサービス業です。患者さんが病院を選ぶ時代となった今、医療の充実はもちろんですが、受付での対応などサービス面の充実も大切です。そのために協会も多様なサービスを提供し、これからも医師を力強くサポートしていきたいと思います」。

医師はもちろん、医師のもとを訪れる多くの患者さんのためにも、保険医協会のさらなる活躍を期待したい。

Data  
山梨県保険医協会  
山梨県甲府市朝気1-3-19 TEL 055-227-5434

今回訪れたのは、甲府市朝気にある「山梨県保険医協会」の事務局。その協会の事務局長の伊藤龍吾さんと奥様の設栄さんご夫妻は、そろってトヨタ車ユーザー。15年間トヨタ車以外に乗ったことはないそうで、これまでに乗った車はご夫妻合わせて9台。現在、龍吾さんはアルファード、設栄さんはbBに乗っていて、奥様のbBは仕事でも大活躍しているそう。

ご夫妻が事務局をしている保険医協会は、保険診療している医師の経営から医療の充実、生活までサポートする任意団体で、現在県下の約360名の医科、歯科の保険医が加入している。医療保険制度などの改善をめざす活動や共済活動、医師やスタッフ向けの教育活動などその内容は幅広く、奥様は医師を訪問するなど外に出る機会も多いそうで、そんな時は愛車が活躍。「bBはとても乗り心地がよくて、狭い道でも快適に運転できます。中も広くて、使い勝手がいい車です」とスタイルはもちろん、乗り心地にも大満足されている様子だ。

一方、日本伝空手道「剛琉會」の甲府道場長という顔も持つ龍吾さんは、通勤はもちろん、空手の遠征にも自分の車を使っている。基本的に大型バスでの移動だが、新潟などには車で



愛車とともに、小回りのきくサービスで医師をサポート

韮崎市の高台にある大沢裕司さんのお宅は、南に富士山、北に八ヶ岳、目の前にはぶどう畑が広がる最高のロケーションに建つ。シンプルモダンな外観が印象的な「シンセ・アヴェンティノ」は、大沢邸が山梨県で1軒目の施工という新しい商品。ご夫妻そろってその外観に一目惚れしたそうで、「何でも1番でなくては嫌なんです、その希望にもびったりでした」とご主人。



「玄関は家の顔ともいえ

る場所なので、インパクトを与える空間にしたいと思いました」という奥様の言葉通り、重厚感ある両開きのドアに、ゆったりとしたホールが広がる玄関スペースは、とても贅沢な雰囲気。さらに緩やかにつながるリビングとダイニングや、ダークブラウンとホワイトでまとめられたインテリアなど、随所にこだわりが感じられる。

中でもご主人がこだわったのがリビング。「家族4人がいつも自然と集まる場所にしたいと思い、階段もリビングの中に造ってもらいました。子どもたちが2階にいても気配を感じることができるのもいいですね」と、とても気に入っている様子。

また吹き抜けに面した2階のホールには、ご主人の趣味の熱帯魚のスペースがあり、さらに2階ホールの上には広めのロフトも設けられている。「ロフトは本当は別の使い方を予定でしたが、子どもたちがとても気に入って、おもちゃを次々と運び込んでしまい、今ではすっかり遊び場です」と、子どもたちも新居での生活をとても楽しんでいるようだ。



家族をつなぐ理想の住まい リビングはみんなが自然と集まる場に



「この家に住んでから、家にいる時間が増えました。子どもたちも出掛けてもすぐに家に帰りがたがるんです」という新居はまさに理想の住まい。さらに「インテリアや庭づくりなど、これからやりたいことがいっぱいあります。夏には友達を呼んで、庭でバーベキューもしたいと思っています」と楽しみは増えるばかりだ。そんな新居での生活には、いつも家族の笑顔があふれていることだろう。

## お客さまの立場に立って

明るい陽射しが射し込み、ゆったりとした空間が広がるネットヨタ甲斐のショールーム。その一角で熱心にお客さまとの商談を進めている若手営業マンが、今回紹介する益田陽介さんだ。

営業マンになってこの4月で丸2年という益田さんがこの仕事を始めたきっかけは、ご自分のお父様が車を購入した際のある出来事だという。「トヨタ車か、別のあるメーカーの車にするか迷っていた時、ネットヨタ甲斐の営業マンがとても丁寧に、こちらの立場になって対応してくれて、父はその営業マンに感動してトヨタ車を購入しました。その時、私もそんなふうにお客さまに感動してもらえようような仕事をしたいと思ったんです」と振り返る。

お客さまにとって営業は、その会社の顔であり、車という決して安くはない買い物をする時の大切なアドバイザーでもある。それだけに「お客さまの目線に立って、いかにお客さまの立場でのアドバイスができるか、そしてお客さまに感動してもらうためにはどうすべきかを常に考えています」と益田さん。さらに「お客さまにいつも気持ちよく運転していただけるよう、納車後も定期

的に調子をうかがうなど、アフターサービスも大切にしています」と、販売はもちろん、その後のフォローもしっかりと行い、お客さまと長いお付き合いをしていることが伺える。

## 営業という仕事の喜びは

営業の仕事をしている中で、喜びを感じるのはどんな時か尋ねると、「以前、店頭で商談したお客さまで、その日のうちにもう一度ご説明に伺ったら、『初めはただ見るだけのつもりだったけど、あなたの熱心さに惹かれました』と購入してくださ

た方がいました。そんなふうに『益田さんだから買ったのよ』と書いていただける時が、とてもうれしいですね」と語ってくれた。

お客さまとの会話をより充実したものにしたいと、最近はゴルフなど新しいことにもチャレンジしているそうで、ますます営業という仕事に打ち込んでいる様子。

「どんな小さなことでもすぐに相談してもらえようような信頼感があり、その相談にすぐに対応できる行動力もある営業を目指し、頑張っていきたいと思います」と笑顔で語る益田さん。その言葉からは、仕事に対する熱い思いが伝わってきた。

## お客さまとの信頼関係を大切に、感動してもらえようような仕事をしたい。



ネットヨタ甲斐株式会社  
本社 甲府店

益田 陽介さん（山梨市）

## 介護保険ABC — 認知症 —



世界に誇る長寿の国、日本。しかし、長寿は一方で「認知症」など新たな課題を生み出しています。中でも認知症は高齢になるほど発症しやすくなるため、今後大幅な増加が見込まれています。いづつになっても、どんな状態でも、自分らしく生きるために認知症の正しい知識を身につけましょう。

### 認知症とは

認知症とは職業生活や日常生活に支障をきたす程度までに低下する脳の病気です。発症する原因によって3つのタイプがあります。脳の血管が老化によって起こる「アルツハイマー型認知症」と脳の神経細胞によって起こる「脳神経変性型」です。今回は「アルツハイマー型認知症」が中心に解説されています。

### 認知症早期発見

認知症は、周囲が気付いた時には症状が進行していることも少なくありません。初期の症状を見逃さないこと、そして、大切な人への対応も変わりますので、事前に認知症かどうかを見極めることが大切です。

### 認知症の症状と日常生活への影響

- 物忘れが多くなったり聞いたりする
- 物忘れの回数が増えたり忘れる
- 以前はあった関心や興味なくなる
- 人と会ったり外出することをあきらめ、行事に参加しなくなる
- 意欲ややる気を失っていく
- 歩行や車の運転など、日頃できていたことができなくなる
- 知っている人の名前が出てこなくなる
- 忘らさずしていたことを忘れる



### 認知症と診断されたら

認知症の症状は様々ですが、以下のような4つの症状に大きく分けられます。これらの症状の出現は、認知症の生活機能、社会的生活能力、性格によって一人ひとり個人差があり、認知症の症状のレベルによっても違いがあります。認知症と診断されたら、認知症の種類を知ったり、認知症になった人の心や体を正しく理解したりすることはとても大切です。治療方法はもちろん、どのように生活していけばいいかについて、専門医や医療スタッフとよく相談したり、介護・福祉サービスを利用しましょう。

- 認知能力の低下…物忘れが多くなったり、時間・場所・人が分からなくなる。簡単な計算ができなくなる。
- 心の不安と行動の障害…不安、不眠、あるいはすのこないものが見えたり聞こえたりする。
- 日常生活能力の低下…食事・歩行など日常生活ができなくなる。
- 身体障害…歩行・視覚障害、失禁したりする。

行動不足は脳の大事

### 一人格を尊重することが大事 …買ったことを否定するのが最も悪化につながります。

- 喜びのまます受け入れる
- 本人の話をよく聞く
- 強硬にさせない
- 養った能力を保つ工夫を

### 認知症



### 認知症の予防は

脳の老化のスピードには個人差があります。その人の生活習慣と老化が関係しているからです。認知症予防には生活習慣が非常に重要になります。きちんとした食事や適度な運動を中心とするなど生活習慣を見直せば発症の確率は減らせるはずです。また、趣味や社会活動を持つなど毎日モイモイと暮らす工夫を、本人も家族も一緒に行いましょう。

- 週3回以上有酸素運動を…運動をしない人に対して認知症になる発症率が半分です。
- 生きがいを身につけよう……趣味を持つたり、新たなことにチャレンジをしましょう。
- バランスの良い食事を……DHCや脂質、ビタミンの摂取量が多いと認知症になりにくいと言われています。

## 高齢者交流施設 “安心ギャラリー”



安心ギャラリーは平成17年6月にオープンして2年が過ぎようとしています。その間、高齢者向けのさまざまなイベントを開催してまいりました。現在、健康アーチェリー倶楽部が好評で毎週土曜日の開催となっております。また、「安心電話」を昨年安心ギャラリーに開設して、昨年のお正月にはキャンペーンを実施した結果、以前より相談の件数も増えてまいりました。「安心電話」の登録と無料相談イベントの申し込みは随時受け付けております。詳細につきましては下記までお電話下さい。

銀座街の駅1F「安心ギャラリー」甲府市中央4-3-14  
☎055-231-6632  
<http://www.y-anshin.jp/>

介護保険に関するご相談は TEL 055 (236) 6210



住宅介護  
やさしい手

ホームページ [www.yasashii-te.com](http://www.yasashii-te.com)

ここでしか出会えない  
自慢のきじ鍋、だご汁

## 食彩 きじ亭

お店、座敷もある落ち着いた空間で、ゆっくりと自慢のきじ料理を楽しむことができる。  
きじのガラからとった出し汁をベースに肉もたっぷり入ったきじ



昨年11月に甲府の桜町にオープンした「きじ亭」は、その名の通り、きじ料理を食べさせてくれる

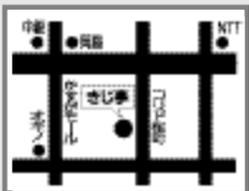


鍋は、濃厚な旨みがあり食べごたえも十分。一度食べたなら忘れられないおいしさで、毎日食べに来る人がいるほど。昼にはきじ飯定食(きじ飯、とりもつ、味噌汁、サラダ、漬物、「トキ」や「きじ出し汁うどん」などもあり、リーズナブルにきじ料理を楽しむのもうれし。



ほかにメニューは多彩で、団子と野菜を煮込んだ九州の郷土料理「だご汁」も自慢。手づくりならではの素材な味わいがたまらない。お酒も豊富で、きじの骨酒や肉酒が味わえるのもこの店ならでは。またオーナーこだわりの泡盛は20種類以上揃っていて、珍しい銘柄も。ほかではなかなか出会えない料理と酒を、ぜひ味わってみて。

営業時間 11:30 ~ 14:00  
17:30 ~ 20:30  
(オーダーストップ)  
定休日 日曜日、祝祭日  
所在地 甲府市中央1-1-4  
TEL055-228-8838



## カラオケルーム ベルシャ 館石和店 リラクゼーションスペース 隠れ家

リーズナブルに楽しめる  
カラオケ&癒しのひととき

ゼーションも楽しめてしまうお店。カラオケは30分の一室使用料金が、1人につき平日11時~18時は120円、18時~翌5時は280円と驚きの安さ。金、土、祝前日、日曜も11時~18時が180円、18時~翌5時が3



昨年12月にオープンしたベルシャ館石和店、リーズナブルな料金でカラオケもリラク

50円とうれしい料金になっている。さらに驚きなのがドリンクフリーの持ち込みが可能で、13種類のソフトドリンクが飲み放題。店内メニューも豊富で、もちろんリーズナブル。ウイスキーや焼酎のボトルも種類が多い。部屋もゆったりとしていて、みんなで集まって楽しむ時間もぴったりだ。



今話題のゲルマニウム温浴と岩盤浴が楽しめる隠れ家は、落ち着いた空間。どちらでも使用できて6分2500円という、やはりうれしい料金。予約をすればカップルや家族での貸しきりも可能だ。好きなスタイルで自由に楽しめるベルシャ館石和店、ぜひ心遣い時間をごせそ



営業時間 11:00 ~ 翌5:00 (隠れ家の受付は4:00まで)  
定休日 年中無休  
所在地 笛吹市石和町四日市場  
1608-2 太東商事第一ビル 2F  
ベルシャ館  
TEL055-262-1230  
隠れ家  
TEL055-262-1231



## 春があまり好きでない訳は？

×月×日

今年は暖冬のせいか早く暖かくなったが、私はいつの間にか春が嫌いになっている。暖かいのは別に嫌いではないが、問題なのは人間関係の変化にある。草木の芽が春に出てくるように、春には新し

い環境での新しい関係が生まれる場合が多い。新入生、新入社員、職場の転勤、全て春のことが多い。生まれた「新しい人間関係の芽」は、素晴らしいものもあるが、害悪としか思えないものもあるからである。

## 気付かないことの怖さ

「いじめ」「セクハラ」「パワハラ」昨今問題になっている人間関係がもたらす害悪の芽は、この時期に生まれ出る。別に自慢するわけではないが、私はずっといじめられっ子だった。学校でも、会社でも、程度はそれほど酷くなかったが、分類としては「いじめられる側」にいたように思われる。そういう経験から近頃問題になっている「いじめ」に対して一寸コメントしたい。

まず一番怖いのは、加害者に「加害者意識」が希薄なことである。会社で「こいつをいじめてやろう」と思って積極的に「いびる」人間は稀で、たまには確信犯もいるが、そういう場合は大概罰せられている。学校でも、多くの学生・生徒・児童は、「私はやっていない」と確信していることがほとんどである。「気付かないことの怖さ」とも言えるが、逆に被害を受けている側は不信感とストレスでいっぱいということになる。

## される側の気持ち

次に「いじめられる側の恐怖」について言うと、「誰にも話せない」というのがその第一に挙がる。「話すな」と脅されているからではなく、多くの場合ただ単に「話せない」のである。私の経験から代弁すると「話してしまったら、本当に独りぼっちになってしまう」から話せないのである。自分の周りは敵ばかり、「敵ではない」人もいるがその人に話して裏切られたらど

うしょう。そんな気持ちで自分自身を縛ってしまう。いじめられる側の不信感と恐怖は、筆舌に尽くしがたい。どんな人間でも「自分以外の社会」に対して接触するための手段を持っているのだが、この場合一時的にその部分は断絶する。或る者はひきこもり(社会との接触を断ち)最悪の結果を迎える場合もある。

## 風邪などと同じ？

「根本的な解決策は？」と聞かれたら、「無い」と答えるしかない。いじめられる原因は多岐にわたり、個人と社会の関係が問題になっているのだから、画一的な解決を望むほうが無理である。風邪を完全に治すワクチンを開発したらノーベル賞ものといわれるが、それと同等か、もしくはそれ以上に難しいのではない

だろうか。従って対症療法で最悪の事態を防ぐことが重要であろう。また、問題が深刻になる前に、春の時点でその芽をつんでおくこと(予防)が必要である。以下に個人的な経験が「やってはいけない事(やられたら困る事)」を挙げる。

## やってはいけない解決策例

- ・責任を個人に帰属させること。
- 最悪の事態の場合は、訴訟のケースもあるが、それ以外は、被告を探しても意味がない。加害者の子供あるいは親が悪いとか、教師・上司が悪いとか、学校・会社が悪いとか、責任を追及することは不毛である。「被害者がいる」という事実は早く掴んだ方が善いし、早急に味方であることを伝えたほうが善いが、犯人探しは無意味である。
- ・「もっと強くなれ」「いじめられる側にも問題が…」などと言って叱咤激励すること。
- 「風邪を引くなんて、精神がたるんでいる証拠」と言って寒中水泳をさせるのに似ている。いじめで憂鬱になっている時にこれをやられたら、ますます鬱になる。

最も効果的な対策は「逃げる事」である。会社から逃げる、学校なら転校する、と書くと怒られるかもしれないが、最悪の事態が予想されるならば仕方がないかもしれない。しかし本当に重要なのは「早く気付いてやること」である。周囲が早めに状況を把握すれば、問題は収束に向かうことがほとんどである。間違っても長引かせて、こじらせてはならない。会社の上司や教員なら、それとなく注意すること。そして友人や家族なら、「周囲は貴方の敵ばかりではない」ということを、それとなく伝えること。「この世界は私が思っているほど悪くない! It's not so bad as I think it to be! 」と思っただけでだいぶ楽になった記憶がある。

[文: 杉村 聡]

やまもと かんすけ

まり してん

## 山本勘助も信仰した摩利支天 —青梅街道—

青梅街道は、甲州街道より2里短く、関所がないため「甲州裏街道」として発達し、庶民から広く利用された。また、昔、甲州街道に雲助(街道筋で旅人に難儀をかけ、暴利をむさぼっていた無宿の悪い駕籠かきや川越人足)が勢力をふるっていたことがあり、雲助から金品等を奪われるのを避けるため、江戸の役者や身延詣の旅人たちが通った道でもあった。

その道筋は、酒折(甲府市)の山崎を起点とし、松本(石和町)、鎮目、別田(春日居町)を経て、万力から笛吹川を渡り、上神内川(山梨市)、上小田原(甲州市塩山)から大菩薩峠を越え、丹波山村から青梅へ、さらに進み内藤新宿で甲州街道と合流するものである。

道の最大の難所は、大菩薩峠。中里介山の未完の長編時代小説の舞台となったことでも有名だ。明治になり、大菩薩峠に車道をつくらうとするが、困難であるため、明治11年(1878)柳沢峠が開削された。以後、道は大菩薩峠から柳沢峠を通るルートへと変更され、今日に至っている。

さて、甲州街道から甲府市酒折2丁目の山崎三差路で左に分かれる地点が青梅街道の起点とされているが、踏切を渡るとすぐ左に、摩利支天堂があるのをご存知だろうか。摩利支天とはインドの神で、語源はサンスクリット語の「マリーチ」、「陽炎」と訳され、陽炎を神格化した、常に自在の通力をもつといわれる女神だ。陽炎には形がないため、実際にとらえて傷つけることはできない。よって、これを念ずれば危険から身を隠すことができるとして、日本では武士の守護神とされてきた。今年のNHK大河ドラマ「風林火山」のなかでも、山本勘助が首からさげており、彼もまた厚く信仰していたことがうかがえる。また、

守護神として崇拝されるかわら、この地が青梅街道と甲州街道の分岐点であることから、旅の守護神として祀られてきたともされている。今もなお、ここから私たちの旅の安全をじっと見守り続けてくれている。

### 沿道の見所

#### - 山梨岡神社 -

春日居町鎮目にある延喜式内社。「山梨」の県名発祥の地であることで知られる。本殿は室町時代末期のもので、明治40年(1907)国の重要文化財に指定された。さて、この神社には鳥居がない。それは、神社背後の御室山で起こった騒動に由来するといわれている。山の中腹にある長谷寺と大善寺の僧侶が、問答のこじれから争いをはじめ、二寺ともに伽藍が炎上。その時に、大善寺の僧が長谷寺に協力した山梨岡神社の鳥居を持ち帰り、焼き払った。これにより「鳥居焼き」がはじまり、また、長谷寺の僧が大善寺より笈を持ち帰り、焼き払ったことで「笈形焼き」がはじまったといわれている。



山梨岡神社本殿(重文)

#### - 万力林・雁行堤 -

武田信玄が、水防のためアカマツ等を植林した防水林。現在は公園となっている。雁行堤は、天正11年(1583)に起こった笛吹川の大洪水の後に築かれた堤防。雁の列のように堤防を並べて築くことにより、水勢を

弱め、川の流れを変えるようにしたもの。「雁行の陣を立て、一陣が破れても、二陣の備えがあり、二陣が破れても、三陣四陣と敵にあたることができる」という信玄の兵法から考え出された水防の策である。現在、林の中にはただ一つだけ石積みのでんが残り、往時を偲ばせている。



万力林



雁行堤(万力林)

#### - 雲峰寺 -

天平17年(745)行基が開いたといわれる臨済宗妙心寺派の名刹。本堂・仁王門・庫裡・書院は室町後期の建築様式を伝えるものとして、昭和24年(1949)国の重要文化財に指定された。武田家代々の戦勝祈願寺で、武田家家宝「日の丸の御旗(御冷泉天皇より下賜されたといわれる)や、風林火山の旗である「孫子の旗(軍旗) 諏訪神号旗(信玄の護身旗) 武田家古文書といった、多くの宝がこの寺に納められた。現在、それらは宝物殿に展示されている。また、寺は中里介山が「大菩薩峠」を執筆したことで知られる。(写真・若林賢明)